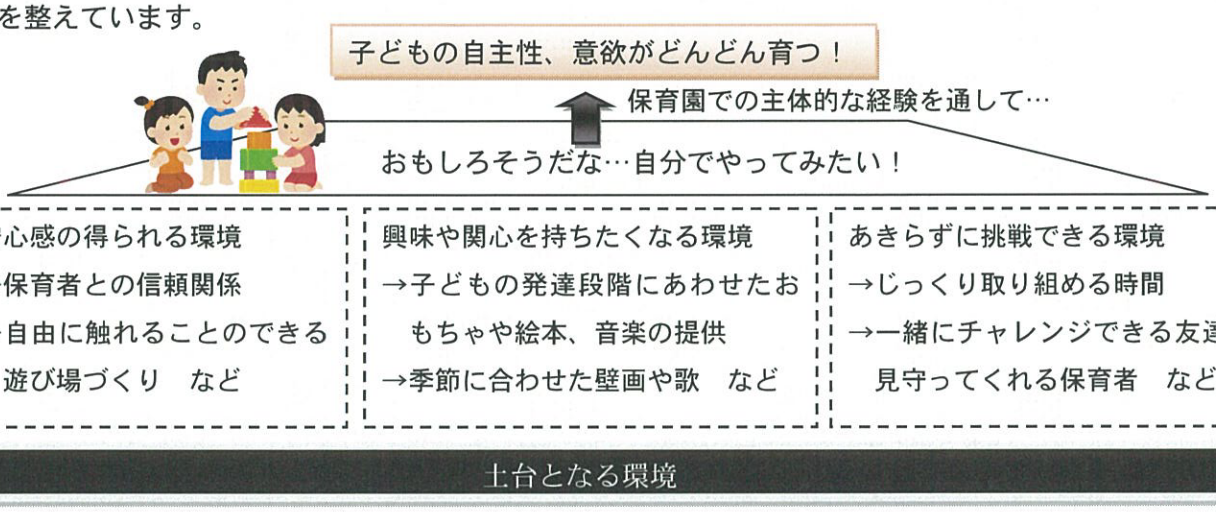
末広保育園は 2018 年度より「子どもの主体性を育てる保育」を実践しています！

少子化の現在、家庭でも教育現場でも、子ども一人一人に手をかけられるようになってきました。よい面ももちろんありますが、「大人が教える、やってあげる」ことが多くなり、子どもたちが「自分でやってみよう」という意欲がわく場面が少なくなっています。小学校の指導要領（文部科学省が発表している学校教育のマニュアル）に「生きる力、主体性のある学び」等の文言が記載されるなど、子どもが自分自身で意思決定する重要さが教育現場でさけばれるようになりました。

末広保育園は子どもたちが「自分でやってみよう」と思った時に、全力でチャレンジできるような環境を整えています。



保育者は子どもの「やってみたい」という興味や意欲を引き出す保育を行います。従来の保育は保育者が一方的に教え、それに従って子どもたちが行動することが一般的でした。時代の変化とともに子どもたちの気持ちに重点を置き、子どもたち主体の保育への転換が必要不可欠になりました。受け身ではなく、「自分でやってみよう」という意欲的な気持ちから参加できるような保育を目指します。

今までのように、保育者が決めた制作物をみんなで一緒に作るというような機会は減ります。どんな活動をするか子どもたち自身が決めるからです。子どもは自分で決めたことにとても意欲的です。さらに子どもが「自分で決めたこと」「自分の思い」をお友だちや先生、家族に伝えるという活動を通して、自分の気持ちを言葉にする力、コミュニケーション能力が育ちます。「今日はどんなことをしたの？」とお家でもお話ししてみてください。

今後 AI 技術の進歩などにより、機械的な仕事はロボットが担うようになるかもしれません。オックスフォード大学の研究で、10 年後に無くなる仕事が発表されて話題になりました。指示されて仕事をするということは、園児たちが大人になるころにはロボットたちが担っているかもしれない。そのような時代の流れの中、子どもたちに生きていく力を身に着けてほしい。この思いから、末広保育園は子ども主体の保育への切り替えを決断しました。保育士一同、子どもたちが安心して主体的に行動できるようにサポートしていきます。保護者の皆様、子どもたちの様子を見て何かお気づき等ございましたら、お気軽に保育士にお話しください。

【具体的な取り組みの紹介】

ランチルームでの昼食…お昼の放送が流れたら、子どもたちは自分で遊びの終わりを決め各自ランチルームへ向かいます。「自分で終わりを決める」ことは主体性を育む上で大切なことです。